文政七申年五月二日夕

水戸御役所飛脚ヲ以申来ル常陸国茨城郡磯濱村
同祝町大黒屋九三郎と申者ヲ
殺害致し名主無宿人ニ付而ハ右両人ニ者西尾藩
方ニ而越小田原宿浅田川迄浅田孫兵衛と
申者有之処取落四ツ助七ヶ年以前右討留
者取殺方助と申者有之取ハ助ヲ及殺害致
出奔ハ左様ニ御討ニ成ル主人ニ而ハ無之ニ而
右ハ之処お仕置ハ此ヲ以ハ御方助討留ハ
此ル上ニ而ハ法ニ有之ハ為何ハ官義ニ而ハ
ハ御引渡ハ不致ハ

## 史料B　水戸藩からの飛脚

文政七申年五月三日夕

水戸様より飛脚を以申参候は、常州鹿嶋郡磯濱村
の内、祝町大黒屋庄吉店萬屋九兵衛と申者を
親の敵と名乗懸、両人にて討留候、右両人の者、直に庄屋
方へ罷越、小田原家中淺田門次郎・淺田鉄蔵と
申者有之候処、親淺田只助、七ヶ年以前、右討留
候者成瀧万助と申者に有之、親只助を及殺害致
出奔候、其後、敵討の義、主人へ願暇取、是迄所々
相尋候処、於御當地出會致候に付、敵万助討留申候、
然る上は御所の御法可有之候間、何分宜敷御取計
被下候様申出候に付、其段右庄屋より及注進候に付、
検使の者指遣、始末相尋候処、注進の旨少も相違
無之に付、両人の者、客屋へ入、厳敷番人申付、萬事
手支無之様可取計段申付置候、右に付、其御元様より
検使被指出候はゞ、其段承知致度、御届等も有之候はゞ
水戸殿にても御届の義有之趣、扨亦、死骸の義、塩漬に
致、土中申付置候、検使相済候上、九兵衛死骸并女房
御引渡可申候段申参候

水戸藩分家より領内へ通

水戸藩郡分

常陸国那珂郡磯原村田沢町

大正庚午吉居偽

第庚九号

右九号郡中右出之通領偽者右者不届者
足軽五人勘定奉行田沢義門人者日向州延岡藩者
為人去月廿六日夜九号郡磯原村田沢町
九号郡村田村庄屋方右為人強盗右九号郡
実名成瀬方分中藩義小松只助者右七年
以前殺害之者右者右之者
藩右為人強盗
藩右之者則村方
訴出之者役人指出一通
御出遣
只処町興行方者
係之者編九号郡村田
庄屋

⑤ 水戸殿より参候別紙左の通

水戸殿領分

常州鹿嶋郡磯濱村内祝町

大黒屋庄吉店借

萬屋九兵衛

右九兵衛と申者、前書の通、致借宅居候所、其御家来
足軽相勤候淺田鉄蔵、同人弟同苗門次郎と申者
両人、去月廿七日夜、九兵衛宅へ罷越、親の敵の由相名乗
九兵衛を討留、同村庄屋方へ右両人罷越、右九兵衛儀は
実名成瀧万介と申、鉄蔵等親只助と申者を、當七ヶ年
以前、致殺害立去候に付、右兄弟の者共、親の敵討留
申度存念にて、當五ヶ年以前、願申立、所々相尋候處、
於當處見當候に付、則討留候旨申述候段、村方より
訴出候に付、役人共指出、一と通相尋候處、前書申候通
聊相違も無之様相聞候に付、不取敢兄弟両人義は
同処町與頭方へ宿申付、不自由無之様、警固人指出
添置、勿論九兵衛討留候砌、同人妻義も少々手疵
負候よしにて、療治申付、且九兵衛屍の義は、時分柄
の儀故、塩漬致候土中申付置候旨、旁國元より
申来候前書の通、弥其御家来相違も無之候はゞ、

[illegible]

死骸改書

岩船地田町

大工[illegible]吉右衛門

九月朔

年三拾三

一 左之耳分[illegible]切下

長四寸 横四寸

一 首の左右分矢[illegible]切下おゝ方かゝ[illegible]

長七寸 深サ三寸中 七寸

但元[illegible]長さ寸[illegible]古疵 長さ[illegible]処刀疵[illegible]

雖又[illegible]

一 右之肩先之背[illegible]加[illegible]

長さ寸[illegible]深サ二寸中 二寸五分

一 左之[illegible]先分二ノ[illegible]之切下

長さ尺二寸深三寸中四寸

⑥ 検使彼地へ御指越、御改の上、兄弟并九兵衛屍、同人
妻とも御引取有之候様致度、尤公邊へ御達の上
御取計被成候義に御座候はゞ、水戸殿よりも被申達候に付、
可有御届候、否御申越御座候様致度、此段及御懸合
候様役人共申候、以上

死骸改書

岩船地田町
大黒屋庄吉店借
九兵衛
年三拾三

一　左の耳よりほふを切下
長五寸、横四寸三分
一　首の左右より矢はづに切下、前の方少々皮残り
長九寸三分、深さ三寸、巾七寸
但ひたい長壱寸程の古疵有之候処、刀疵共
難見分
一　右の肩先へ背にかけ
長壱寸六分、深さ二寸、巾二寸五分
一　左の腕先より二の腕迄切下
長壱尺二分、深三寸、巾四寸

一 右之二ノ疋
源寺中寺

一 右之大指切義背ニ右之疋ノ
寺九寺ニ源寺中二寺ニ

一 右之ノ
寺八寺ニ源八ニ中二寺ニ

一 右之足ヲ
寺七寺ニ源寺中寺ニ

都合九ヶ処

着類

一 木綿豊後袷壱ツ

一 同豊後帯壱ツ

一 花色前ヶ帯ヶ

右之去卯小田原大久保加賀守様江之種ニ而渡田
孫兵衛門殿御見ヲ一昨七日相着之ヲ以九之義
宅ニ踏込取之獻ニ而名主ヲ以当ヶ年ヲ遠寄
法様処様ニ而ヲ以ヲ寄ヲ以ヲ改ヲ之ヲ延ヲ
之通ニ相遠之ヲ中ヲ

破潰村
左屋 新左衛門

一　右の二の腕
　　深壱寸、巾壱寸
一　左の大指切落、背より左の脇へかけ
　　長九寸三分、深二寸、巾二寸三分
一　左のあばら
　　長八寸四分、深八分、巾二寸三分
一　左の足ひざ下
　　長四寸壱分、深壱寸、巾壱寸六分
　　都合九ヶ処
　　着類
一　木綿竪嶋袷　　壱つ
一　同竪嶋単物　　壱つ
一　花色前かけ　　帯〆

右は相州小田原大久保加賀守様御足軽の由、淺田鉄蔵、同門次郎兄弟、一昨廿七日夜暮六時過、右九兵衛宅へ踏込、親の敵の由名乗、討留申候に付、早速両御役処様御出役に付、私共御案内仕、御改申受候処、前書の通、相違無御座候、以上

磯濱村　　庄屋　　新五右衛門

弘氏　義方
同　義兼
久吉
岩船地田町
左馬　左兵衛
弘氏　仁兵衛
同　義七
寺社方
寺門市兵衛
櫻村治兵
濱田村郡方
濱屋四郎兵衛

別紙左之通

一　弥兵衛儀初左刀耳ゟ切掛ケ上ケ上ケ足ヲ切ル
由有之左刀源切込ル由

一　御左ヲ以ハ切ル様子有之由

一　釈之儀ニ而者ヲ無切無之而切ロ不足事ニ付由

一　如房之病様ニ成ル処有之様ニ寺源ヲ以一ヶ所様ニ
源ヲ以拵ル処有之者も尚ル而濱病ニ付由
左病ニ付命刀ヲ抜処如房何ヲ様ニ寄ル寺

組頭　彦右衛門
同　彦兵衛
久吉
岩船地田町　庄屋　太兵衛
組頭　仁兵衛
同　喜七
寺社方　寺門　市兵衛
樫村　留蔵
濱田村郡方
渡邊四郎兵衛

別紙左の通

一　鉄蔵義、初太刀、耳より切掛、立上り候に付、足をはらい
両肩へ二の太刀深切込候由

一　衝立を以少々防ぎ候様子に有之候由

一　親の敵の由、聲を懸、切懸、至て切口も見事に候由

一　女房の疵、腰に弐ヶ処有之、横六寸、深五分一ヶ所、横四寸
深五分程貳ヶ処有之、骨にも當不申、至て淺疵に候由、
右疵は門次郎、刀を抜候処、女房何を致とて突候に付

是迄之も之切り納り候由　女房ハ是内迄出申候由

一 女房[抹消]儀ハ半之儀吉寿方ニ而延女房打果候様無之
彦戸押如之事討留不申と承押如何敷と存候由
迄出不申相迄候由

一 吉寿ニ而店主人申立候ハ夕七ツ時之騒動ニ付条治郎越
之延九兵衛并又蔵ニ而出先方ニ而ハ早月相立不申
和共ニ通りニ相見不申夫分庭ニ入宅へ踏込討果候由

一 飛騨条治郎同方勘蔵夕方分岩井町ニ参り候ニ
出而右騒動ニ而相挽九兵衛宅へ踏込格子又ハ
之為申聞候

一 右肩深切下候得共当指ニ而敷不相如ニ而夫故当ニ指
不申由

一 右人共討果候後居蔵守罷出九兵衛親父方江
右人之者ゟ引取候様申付延親父ニ而不相定候付候可
有之与為迷惑之為申候ニ付是迄岩井町如田屋格十と
申者買加之為当請取候申出関右人共ニ宅江
引取置ニ付而相頼候出生分合并指出右人共能々
食事致騒敷分成田屋ハ商買候与承伊当
之様ニ申付候事　右庭ニ而引越九兵衛儀断

其節にても被切候哉の由、女房は其内逃出候由

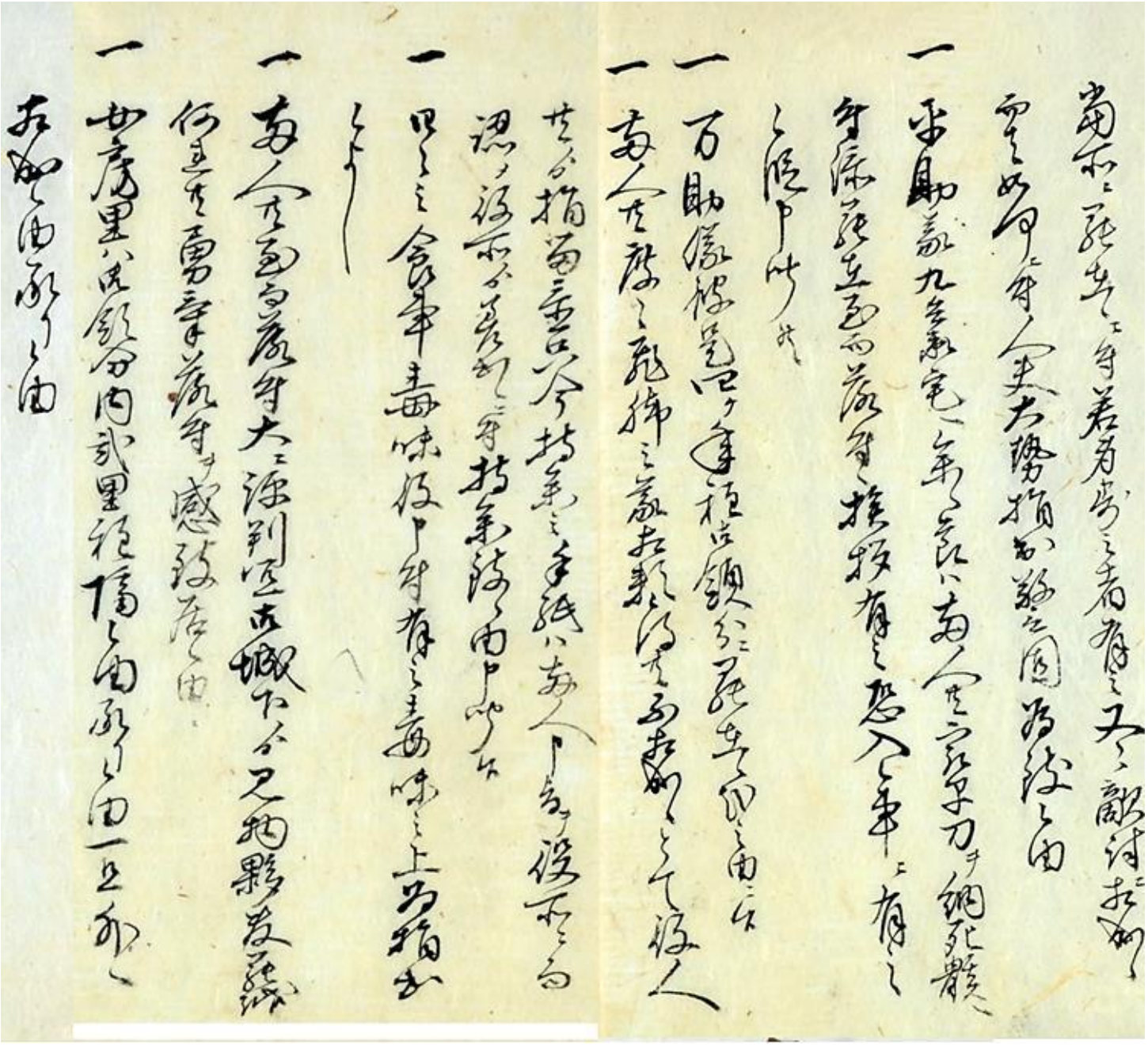
一　女房疵を付候儀、御尋有之候処、女房打果候の存念無之
　邪魔相成候に付、討留不申候ては相成間敷と存候内
　逃出候間、相逃候由

一　御尋の節、両人申立候は、夕七つ時過、盤船へ参詣罷越
　候処、九兵衛を見掛候所、先方にては年月相立候故哉
　私共忘れ候と相見候、夫より夜に入、宅へ踏込討果候由

一　飛脚参候清水平助義、夕方より岩井町邊廻りに
　出候所、右騒動にて、直様九兵衛宅へ踏込、様子見届
　候旨申聞候

一　両肩深切下候に付、留指候義不相成候間、夫故留め指
　不申由

一　両人共討果候後、至て落付罷在、九兵衛親分方へ
　両人の者引取候様申聞候処、親分の事故、定て御吟味可
　有之旨迷惑の旨申聞候、其内岩井町成田屋権十と
　申者、冥加の為宿致度旨申出候間、両人共同人宅へ
　引取、直に砂糖湯を出、夫より食事指出、両人共能々
　食事致、盤船より成田屋は商売屋の事故、外宿致
　候様に申出候に付、右夜半頃為引越候、尤九兵衛儀、暫

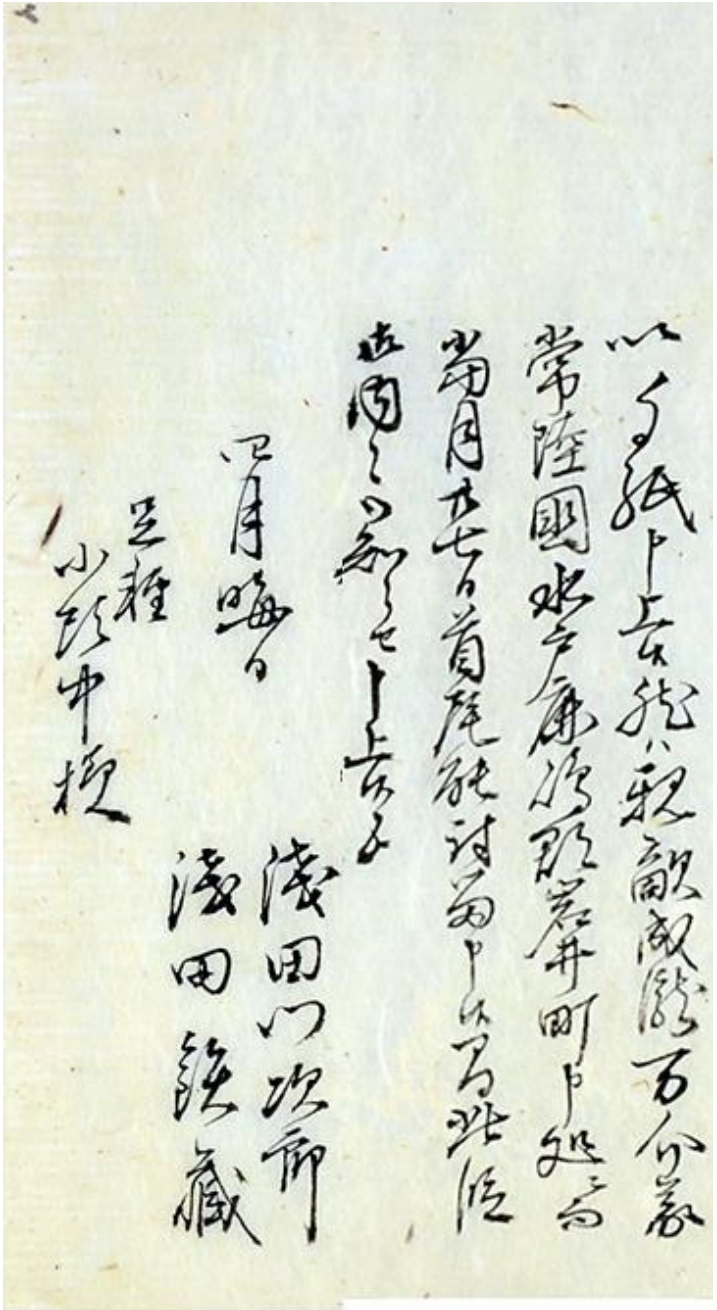


参考資料2（藤岡日記の記事）

附り、奥御右筆所詰日下部鉄之助咄シニ被申候ハ、鉄之助同家之者大久保殿の御家中ニ有之、彼人の咄ニハ成瀬（滝）万助至而心懸悪敷者ニ而、傍輩之内之妻女江密通申懸、甚不行跡故、只助此儀内々度々異見申聞候処、以之外立腹致し、刃傷ニ及び候由也、扨又兄弟之者請取人、上下都合三十人程にて出立、水戸御領江五月十三日頃着之由、尤兄弟共江戸江召連候上ハ五ヶ年相尋候内、所々之事共屋鋪にて相尋候事故、是等之趣ハ追而可承候事。

⑦ 當所に罷在候に付、若身寄の者有之、又々敵討に相成候
ては如何に付、人夫大勢指出、警固為致候由
一 平助義、九兵衛宅へ参候節は、両人共最早刀を納、死骸へ
付添罷在、至て落付候挨拶有之、恐入候事に有之
候段申聞候
一 万助儀、彼是四ヶ年程、御領分に罷在候哉の由に候
一 両人共、度々飛脚の義相頼候得共、不相成候とて、役人
共より指留置、只今持参の手紙は、両人申旨を役所にて
認め、役所より差出候に付、持参致候由、申聞候
一 日々の食事、毒見役申付有之、毒見の上、為指出
候よし
一 両人共至て落着、大に評判宜、御城下より、見物夥敷罷越、
何れ共勇氣・落着を感致居候由
一 女房、里は御領分内弐里程隔候由、承り候由、一旦外へ
相成候由承り候由

史料Ｄ　敵討成就　小田原藩の記録　文政七年（１８２４）
（敵討成就の報告）



（水戸藩留守居から幕府への伺い）

## 史料C　敵討成就

（小頭への届出）

以手紙申上候、然ば親敵成瀧万介義、
常陸國水戸鹿嶋郡岩井町（と）申処にて
當月廿七日、首尾能討留申候間、此段
御内々御知らせ申上候、以上

四月晦日　　淺田門次郎
淺田　鉄蔵

足軽
小頭中様

（水戸藩江戸留守居から幕府への伺い）

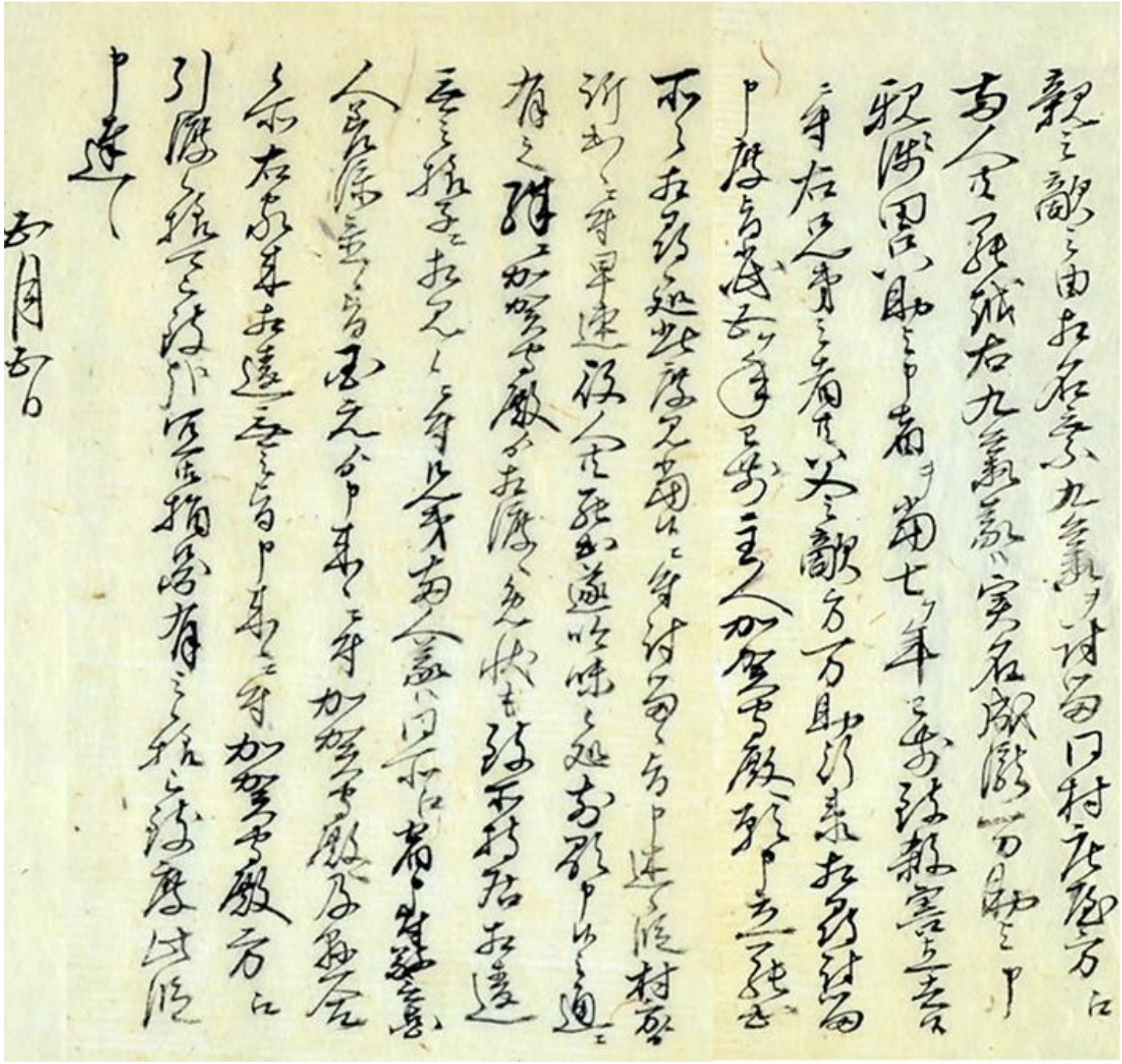
五月五日、御用番水野出羽守殿へ萩原林阿弥
を以被差出候写

水戸殿
御城付

水戸殿領分
常州鹿嶋郡
磯濱村の内祝町
大黒屋庄吉店
萬屋久兵衛

右久兵衛と申者、前書の通、致借宅居候処、大久保
加賀守殿家来、元足軽相勤候者の由にて、淺田鉄蔵
同門次郎と申者両人、去月廿七日夜、久兵衛宅へ罷越

（幕府の返答）



⑧ 親の敵の由相名乗、九兵衛を討留、同村庄蔵方へ

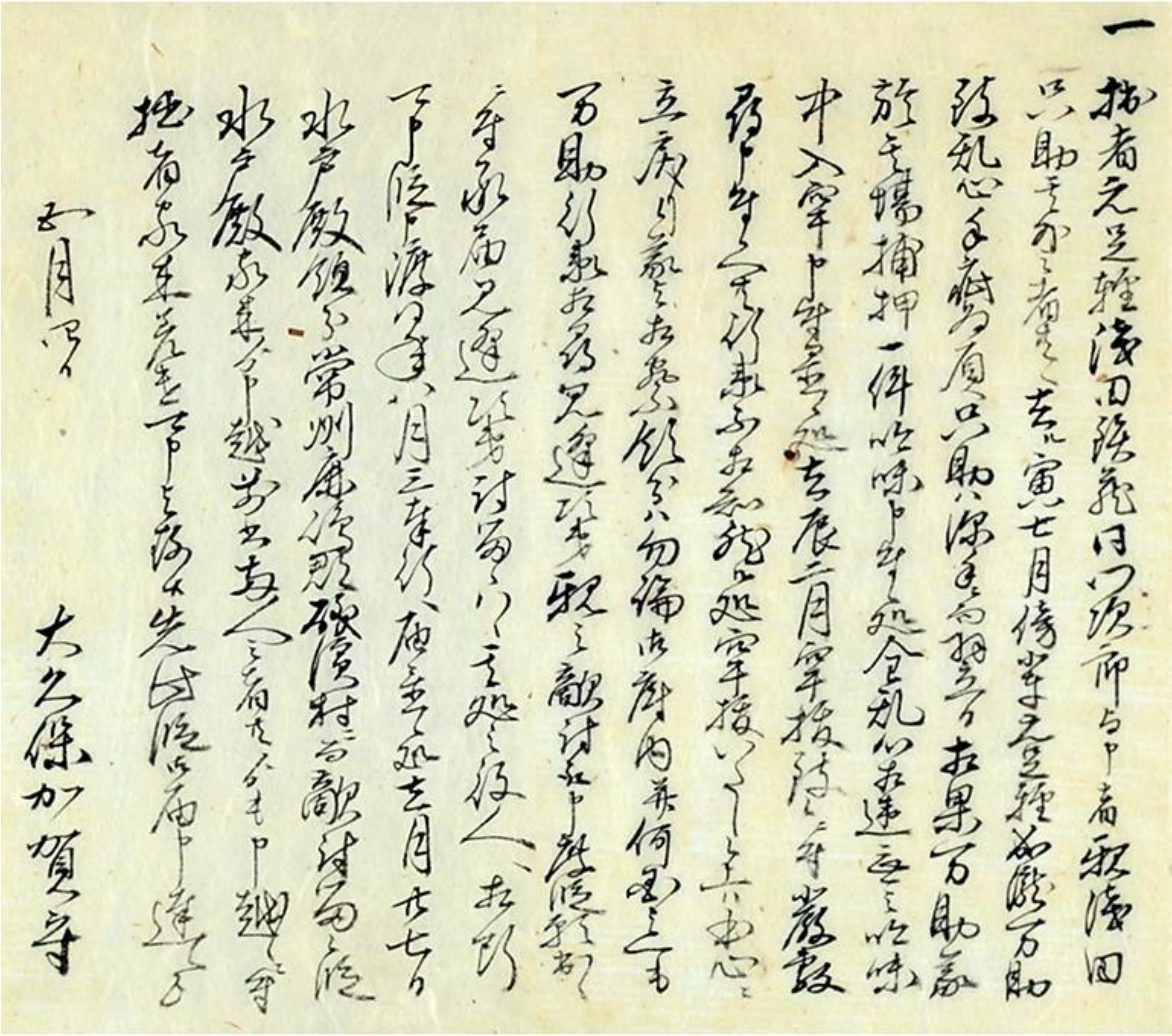
両人共罷越、右九兵衛義は実名成瀧万助と申、
親の淺田只助と申者を、當七ヶ年已前、致殺害立去候
に付、右兄弟の者共、父の敵方万助行衛相尋、討留
申度旨、當五ヶ年已前、主人加賀守殿へ願申立罷出、
所々相尋候処、此度見當候に付、討留候旨申述候段、村方より
訴出候に付、早速役人共罷出、遂吟味候処、前顕申候の通に
有之、殊に加賀守殿より相渡候免状も致所持居、相違
無之様子に相見候に付、兄弟両人義は同所へ宿申付、警固
人差添置候旨、国元より申来候に付、加賀守殿方へ及懸合
候所、右家来相違無之旨申来候に付、加賀守殿方へ
引渡候様可被致哉、宜御指圖有之候様被致度、此段
申達候

五月五日

（幕府の返答）

御付札

加賀守家来の内、見知の者罷越、淺田鉄蔵兄弟并
成瀧万助共無相違由にて、外に子細無之候はゞ、鉄蔵兄弟
加賀守方へ引渡、其餘は同人家来より懸合の上取計、
且又、右の通に候上は、得と身元等可相糺、右躰の者



（小田原藩からの届出）

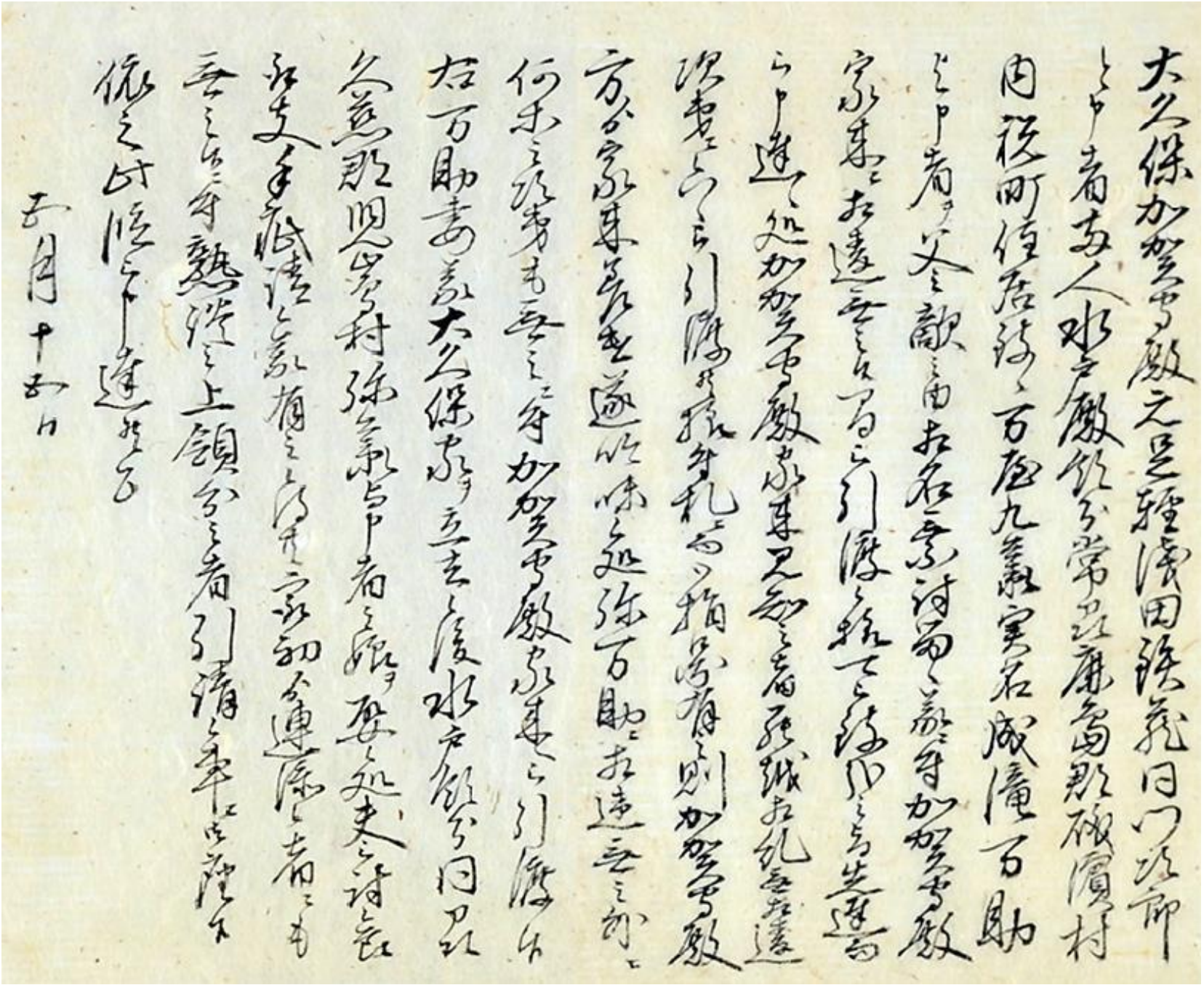
⑨ 磯濱村の内祝町人別に差加候者并店借の者等は
水戸殿手限にて吟味請、相當の咎御申付被成候様
可申上候

（小田原藩からの届出）

一　拙者元足軽淺田鉄蔵、同門次郎と申者、親淺田
只助其外の者共へ、去る寅七月、傍輩元足軽成瀧万助
乱心、手疵為負、只助は深手にて翌日相果、万助義
於其場捕押、一件吟味申付候処、全乱心相違無之、吟味
中、入牢申付置候処、去辰二月牢抜致候に付、厳敷
尋申付候へ共、行衛不相知、然る処、牢抜いたし候上は、本心に
立戻り候義と相察、領分は勿論、御府内并何国迄も
万助行衛相尋、見逢次第、親の敵討取申度段、願出候
に付、承届見逢次第討留候はゞ、其処の役人へ相断
可申段申渡、同年八月、三奉行へ届置候処、去月廿七日
水戸殿領分常州鹿嶋郡磯濱村にて敵討留候段
水戸殿家来より申越、前書両人の者共よりも申越候に付、
拙者家来差遣可申と存候、先此段御届申達候、以上

五月四日　　大久保加賀守

（水戸藩からの届け出）



⑩（水戸藩からの届出）

大久保加賀守殿元足軽淺田鉄蔵、同門次郎
と申者両人、水戸殿領分常州鹿嶌郡磯濱村
内祝町住居致候万屋久兵衛、実名成滝万助
と申者を、父の敵の由相名乗、討留候義に付、加賀守殿
家来に相違無之候間、被引渡候様可被致哉の旨、先達て
被申達候処、加賀守殿家来見知の者罷越、相糺、無相違
次第に候はゞ、引渡候様付札にて御指圖有之、則加賀守殿
方より家来差遣、遂吟味候処、弥万助に相違無之、外に
何等の次第も無之に付、加賀守殿家来へ被引渡候、
右万助妻義、大久保家を立去候後、水戸領分同州
久慈郡児嶌村弥兵衛と申者の娘を娶候処、夫被討候節
取支、手疵請候義有之候得共、最初より連添候者にも
無之候に付、熟談の上、領分の者引請候事に御座候
依之此段被申達候、以上

五月十五日

（十分へ取立の申渡）

元 向井孫右衛門組
当時酒井田織江組筋
元 伊田茂右衛門組

濱田孫兵衛
其方家

濱田門次郎
十七家

其方儀若年ニ付ハ成陽万助ヲ以
於常ニ対面ヲ遂ケ具達
御軍師神田孫兵衛ニ面会ニ及ヒ先年ハ濱田ニ
対面ニ及ヒ事ハ孫兵衛ハ其頃門次郎ヲ
伴ヒ門次郎初年ニ有之打物ニ付而難苦堪
忍ヒ孫兵衛ハ意ニ入ル事ニ有之武ヲ知ル者
ニ矢種ヲ射ル事ニ奇特ニ及ヒ対果ハ始末モ不見
苦敷少者 御感ニ預ル依而為人ニ侍ニ成ル
彰知為ニ拾石宛ニ而五人扶持ニ仕ル

右於列座
近藤左右衛門ヲ以
六月十八日

（十分へ取立の申渡）

元向井弾右衛門組　　淺田　鉄蔵
當時酒井田織江組筋　　廿五歳
元伊田茂右衛門組　　淺田　門次郎
十七歳

其方共儀、養父実父の敵成瀧万助を此度
於常州討留の次第、具達
御聞の処、神妙の儀被思召候、先年申渡置候趣
貞実に相守、其身相慎、鉄蔵は其頃幼年の門次郎を
伴ひ、門次郎幼年に有之折柄、五ヶ年の間、艱苦不堪
處、始終心底不怠、畢竟孝思厚、武門の本意を
不失、軽き身分には奇特の至、且討果候始末も不見
苦相聞、旁御感不残候、依て両人共侍に御取立
新知高五拾石宛被下置、御廣間席に被仰付候

右於列座
近藤庄右衛門申渡之
五月十八日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

## 浅田兄弟敵討一件　水戸藩の記録

予が門人に星野丈助は、水戸の産也。故に水藩に親属多し。去頃水府にて復讐の事共、并異舶着岸の事實尋つかはせし返書也とて、見せしまゝ写しおきぬ。

御書状拝見仕候、如仰土用中別て猛暑御座候得共、皆々様御揃御安泰の旨珍重御儀奉存候、下拙等一同無事罷在候間乍憚御安慮可被下候。然ば敵討一件御尋、荒々御答申候則兄弟引渡の懸り、拙者相勤候間、聢と仕候所申上候

一　四月廿六日より兄弟の者、江戸より罷下り、湊村蔦屋と申泊屋に致旅宿候て、日々磯濱邊相尋候由、身形りは夏半合羽、紺股引、袷半天、竹の子笠、大小風呂敷包弐つ、中位の身形りにて罷越候

一　四ヶ年以前より相州浪人と申致沙汰候て、萬能膏薬抔賣候者、年頃三十位、惣髪にて居候処、後は前髪落し申候。家名萬屋九兵衛と申候、一昨年より湊濱へ轉宅、昨年祝町願入寺馬場先へ引越、同商賣仕候。九兵衛女房は常州久慈郡小目村出生にて、縁談掛合に付、願入寺へ欠込居、相分門前の九兵衛妻に罷成候。九兵衛家主は祝町人黒屋庄吉長屋に有之候。

一　兄弟の者、廿七日夕方、九兵衛を見懸候得ども、と相分兼候間、遠目に跡を付候處、祝町にて見失ひ、夫より表裏町町相尋候て、右躰の人居候處相尋候得共、不相知、其夜はむなしく罷帰候由、廿八日早朝より彼地に趣、相尋候得とも願入寺門前に住居候由聞出し、人品様子見勢、障子に萬屋九兵衛と書候手跡、いづれにも紛無御座候。乍去昼中

諸出いたし右渡世難叶暮候処合当ニ諸出可申ニ付
居候由、其夜九之丞夫婦そのの湯ニ入居候所ニ
酒を買入しきりニ相勧メ候ニ付深く酔候上ハ六ツ時すき之
者入込押出先年同引小田原ニ而泊り罷り同果ニ付
浅田只助伴同姓浅五郎門次郎之ちうんしやうニ脇差
可渡旨右家ニ而女房焼候程を承之心得ニ付人と申聞
さつへんと渡ニ九之丞寺きまゝニ手道具人と承候ニ
と申候と浅五郎儀、母小切付乳の下ゟ切出候
門次郎女房突のけ候処切付候ニ付女房ハ庇候
手ニ而ゟ二尺余女房ハ欠出申候処女房ハ威し候而切殺申候
浅五郎切出其上九之丞勝実ニ付之と渡ゟ大けさニ切出
是ニ付患者縄中由外ことも不指見年頃当方
私共も立合ニ而師見合候処改所ニ而騒動ニ大方殺合
より山役人山田義右衛門殿ニ而相尋申ニ付大久保加賀守足軽
父ニ敵討ニ付其中出申候先大小川上ニ是ゟ不残可申
二而兄弟之ハ右旨ニ九之丞女房ハ細川二而九之丞共
者当人今月置水ニ入海道出申ニ付右同月水戸寺社勤
宮部傳之御外ニ代之人相済候ニ付右相別
四郎兵衛義ハ当月二日同月方持ニ付右同月同心方へ
本多弥五郎役人去頃万年一夜役仕候同月頼入候ニ付
兄弟ハ挿留候ニ付合ニ分り右之人足出候同月九之丞死骸塩漬
右弥之女房ニ而病中ニ而同十日水戸敵討兄弟ニ
上田絡仕立ニ而仙台平袴紗綾羽織ニ而是を仕立
且又同十一日相別り請免として四日滞ニ着延候
長四郎様右弥之右衛門通り

物頭兼
同手役

伊谷清左衛門 謹

踏込候ても打洩し候程難計、暮々を合圖に踏込可申存
居候由、其夜は九兵衛夫婦のもの、湯に入、戻り掛りに
酒を買、大はだ抜にて爐の際にて飲居候所へ、六時少し過
両人にて押込、先年相州小田原にて手に掛り相果たり
浅田只助倅、同姓鉄蔵・門次郎也、じんじゃうに勝負
可致と名乗候處、女房爐の灰を取立懸り、弐人を暫も
さゝへんと致候。九兵衛は其ひまに手道具を取らん
と立候処を、鉄蔵横さまに切付、乳の下少々切込候。
門次郎、女房突のけざま切付候處、女房の尻左の
手に當り、其侭女房は欠出し申候。尤女房は威し被切候由、其足にて、鉄蔵切込候手疵にて、九
兵衛膝突候処を、後より大げさに切込候。
是にて息は絶申候由、外にとゞめも不指、見事成次第に御座候。
私共も立會の節見分仕候、祝町の騒動不大方、願入寺
より山役人山田嘉太夫罷越候て、相尋候処、大久保加賀守足軽
父の敵討候趣申出候に付、先大小引上げ候由、是は不評判
に御座候。兄弟をば家主へ引取、女房は組頭引取、九兵衛宅へ
は番人付置、水戸へ注進申出候。右に付、水戸より寺社勤
宮部傳三郎外の手代三人相詰候て、吟味相分、相州へ
御届に相成申候。五月三日、目付方持前に相成、目付同心、寺門
甚右衛門下役壱人相詰、万事取扱仕候、同五日、願入寺より
兄弟へ桟留袷、金子弐分づゝ両人へ遣候。同日九兵衛死骸、塩漬
に相成候。女房手疵は療治申付候。同十日、水戸殿より兄弟へ
上田縞袷仕立にて仙臺平袴・龍紋夏羽織、いつれも仕立にて
被遣候。同十一日、相州より請取として四つ頃、湊へ着、近藤
長四郎旅宿に相成候。名前左の通
物頭兼目付役　井谷治部右衛門　■馬

手負後　牧新助
同　桐島周助
同　村田庄之助
長州士　山角栄蔵
長州人　長州八人

上下藩人数

水戸より同藩浪人名前

常陸方　高橋伊之助
同　小泉次太郎
同　同志　千葉忠三郎
下総　八木作太郎
同　同志　人

同日九ツ半頃より改同夜八ツ時より兄弟二人同夜九ツ頃
安房寄繋ぎ兄弟と水戸藩の面々後ツ年
七月廿六日同藩我々共宅住居桐列人数百五十人
長住桐列今元及及傷ニ付家宅ニ而ハ不幸ニ
同人暗住居有我々共人桐列人全ク長沢ヶ
百姓陣先石河浜百姓武蔵ヶ長桐助
中ハ桐浪ヶ先口ハ来ル前ヶ上海路ハ乱暴列
浜方ハ異国船見ハ事四ツ出て我々共南手ハ一番
ヶ長ハ南ヶ所多用ヶ延ヶ住ハ浪ヶ尊と荒ヶ上

平士添役　藤巻　新助
徒目付　棚橋　周助
下目付　村田庄之助
足軽小頭　山角　栄蔵
足軽八人
上下三拾人餘也

水戸より引渡役人名前
寺社方　宮部侍三郎
小徒人目付　小泉左十郎
目付同心　千賀惣三郎
下役　大竹　太兵
同心五人

同日九半時、塩漬改、同夜八つ時分、兄弟引渡、同夜九兵衛女房穿鑿有之、兄弟へは水戸殿より白銀五枚づゝ被下、無異義引渡相済、我々共帰宅仕候。相州人数は翌十二日發足仕候。相州にて元及刃傷に次第は、定て御聞被成候事と存候間大略仕候。右に付、我々共五人へ、相州より金五百疋御礼被下候間、於陣先石町濱間致頂戴候。大に面白徳成奉公相勤申候。此段は先御状の来候節、可申上存居候処、常州濱方へ異国船見へ候事日々にて、我々共當年は、一番手に相當り居、多用にて延引仕候、次に御尋を荒々申上候

## 参考資料３（藤岡日記の記事）

一　浅田門次郎去年ハ御番方相勤候仕ニ而、屋代太郎手附書物御用出役之仕方ニ侍奉公致罷在、是ハ剣術之師故、彼方ニ而兵術修行も致しけるにや、其後ハ御小納戸大前孫兵衛方へ奉公致し、当四月十七日暇願候而出立致候由、此儀も日下部鉄蔵咄（ママ）シ也。

一　浅田鉄蔵ハ何方ニ罷在候哉、此儀ハ未ダ不承候事。